

コミュニティ・スクールだより

No6

地域学校協働活動の様子

地域の住民や団体の皆様の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えていただいております。どの取組も、地域との“つながり・きずな”が実感できるものです。その一部を紹介します。

入しやすいところ 見えにくいところ（地域安全マップ）11月

5年生が、“地域安全マップづくり”の学習を行いました。東広島防犯連合会事務局の方々をはじめ、大勢の皆様にご支援ご協力をいただきました。

「地域安全マップづくり」とは、「だれもが『入しやすい』『だれからも『見えにくい』」をキーワードに、犯罪が起こりやすい場所を子どもたち自身が判断し、場所に応じた適切な行動を取ることができる力（危険回避能力）を育てる取組です。学習のねらいは、“地域安全マップ”を作ることではなく、一連の活動の中で、子どもたちに「危険な場所」を判断できる力を身につけさせることにあります。犯罪が起こりやすい場所には、「入やすく」「見えにくい」といった共通点があるといわれています。

フィールドワークに出かける前、体育館で学習のねらいや進め方（事前学習⇒フィールドワーク⇒マップ作製⇒発表）、フィールドワークを共にするグループ内でのそれぞれの役割などを確認しました。その後、リーダーを先頭にしコース地図を持って、学校周辺を約1時間30分かけて歩いて回りました。フィールドワーク終了後には、それぞれの場所での気づきや校区内にお住まい方や事業所にお勤めの方などから聞き取ったことを付箋に書き、タブレットで撮影した写真と共に地図上に貼り付けました。活動の最後には気づきを発表し、危険な場所や安全な場所についての振り返りを行い、参加者全員と情報を共有しました。

本学習には、東広島防犯連合会事務局、広島県県民活動課、東広島警察生活安全課、東広島市役所危機管理課、地域ボランティア、広島大学学生、保護者の皆様に関わっていただきました。お忙しい中子供たちの活動ご協力いただき、誠にありがとうございました。

